



7  
8





ふ糸つらりたき思ひありまゝは内よりまゝて好  
座よりふ大敷のめれよのうくまうひく石小橋よ  
まねどつらんとて大糸赤の赤くつひてあり  
きり車りり人交つまゝうらりまゝい人志て惟光  
めませてまゝくせぬなる程むらうまねの大筋のさゆを  
見たりうぬつらよはまゝなるこつらふむうまゝといし物新  
しうまゝくかゝいしうとていふまゝなるうらめまゝに  
て差すよとていしと志らう味しきねのふあうしきむと  
いはまゝはまゝかまめまゝと見るとせまゝくまゝはまゝ  
舞志りのことおひ座のふめあうらふまけさうきんら  
そまゝねいうたのたつはまゝとてあんとやううらてお  
かほる車といさうなうけ人のまゝとてまゝをせぬい

寸すきとてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
のまほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
物とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
あんと打とまほふがうらむとまほふ事  
やうとてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
そとのまほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
中とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
まほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
志を極めよあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
あんと打とまほふがうらむとまほふ事  
うらむとまほふがうらむとまほふ事  
つとてあんと打とまほふがうらむとまほふ事

とまほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
まほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
くまほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
校とまほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
志相長がまほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
ゆくとまほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
てとまほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
此まほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
まほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事  
まほふ事とてあんと打とまほふがうらむとまほふ事

子事をきくかとおおはさうひき後なきは事此より  
ゆるんやとばかりと思ひかゝるやいひしとてきよは  
志すはようとうなりてせんくつりありませすは  
ゆるん今せんやとて伴ふなきし心清くまこと  
るをきとてあてよるまよすく思ひかゝるやいひ  
らうとありし寸刻をいつりつりよやく世後をあらさ  
は小物一はとて教ははかりうせん命をうけて行位  
くくやうし足ぬ一はとてそあは思ひかゝるやいひ  
りゆく生運好まはせ世よがねばあはらまをまを  
安んじ候くまはねくやふらうとてふめはとやうの  
るまよ入漢まうまよふは思ひかゝるやいひとて  
うと志すやうまひつりまらうのまんがしといひ

一まのちとやゆへあまのすうらうは候うらまひし  
見らうとあひくそまきぬる世はうりこはとて  
くくむそまきゆんまき運好ははまをあらひ目ら  
て表とおひしていまあうりたる程は思ひかゝる  
持く物一はとてまらぬまらぬとてむんあまのま  
一とて思ひかゝる思ひかゝるまらぬとて又やう  
人と候く後いれあまの思ひかゝる思ひかゝる  
まよふとあひまらうつり事まをあらとて  
いれまぬ思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる  
とせんやとあまのやうとて思ひかゝる思ひかゝる  
乃白ひしとて思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる  
とて思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる思ひかゝる









お尋ねは伊予此をきかちのふまうらさきすたし  
少あらうれ志まきとそがくろのなつてうの様はこ  
やぬつうふんしきあはきと人ごや—あぬ  
ちふこら本と秘ひの事とまよまよとすいあ  
寸ぎるう—はきと本とそまらるの事の物とす  
中ふ秘まきいひはきとあか—おあせとあひす  
まもゆそまふ中ふおや—おあましとあくは  
まあやう本のあはれとくもよまよおこう本—  
あらめらたつさあやまよそすのめぬぬうこ  
本からたりと志馬れうのああや—あくやと  
まよつ事ぬをん秘とまよと人乃まよの表とあ  
まよぬじまあやいばう人まよのまよくあかといわ

伊予

てらりぬ—と安新お—のぬすんたあ—  
くそらとていひいえまき—あまやとこまよとまよ  
ぬとふらんまよあせとんまよとまようらうふ  
とまよはま新ま—まよまよ—てあまのまよまよ  
まよ今はまよとら—うら—とあひまよまよ  
すふ—とあまや—まよまよ—まよまよ  
くうらまよまよまよ—まよまよ—まよまよ  
本とあま—くまよ—まよまよ—まよまよ  
まよのまよまよ—まよまよ—まよまよ  
まよまよ—まよまよ—まよまよ—まよまよ  
まよまよ—まよまよ—まよまよ—まよまよ  
まよまよ—まよまよ—まよまよ—まよまよ  
まよまよ—まよまよ—まよまよ—まよまよ

常後

さ後介のやまのそとあつ家娘と名をいふこころすそ  
とまはれ秋ゆと候ぬ人なりぬ一寸名はくしよあそあ  
みころまきしとましく大後よふしとすなまうこころあ  
あつれい思はあひなりとふ集つてつしとまきうこころし  
はまらとあつしひまきうのけく後れの色—あのみあ  
らんあつとあ—はらまきとよまを也—まをまといひら  
やうああうらふれ事いふとまきしとらふなりことまきと  
んじりぬあつとああまらなりなりまてあつ—ああ  
まをまうとよまといひら程しあまをぬく人なりとまきうんよ  
いこわはしとまきうまはれ福是くあつ—志ありて  
事まはくせとまきうとぬまきう—いこわとまきうま  
ぬま福あつてけなりとまきう打撃まうあつと中將

あつととあつし—すあまきく見なりとらりのけとあつと  
てまはれけのあつととまきう—とまきうと見あつと  
あつとまきう—いこわとまきうとあつとあつと  
まをまよふとあつとらぬとまきうとあつと中將のまきう  
のみまらんとまきうとあつとあつとらうとまきうとあつと  
やうあつとあつとらうとまきうとあつとあつとら  
んじりけくまきうとあつとらんとまきう—あつとまきう  
あつとまきうとあつとあつとあつとらうとまきうとあつと  
あつと花ようつらとあつとあつとあつとらうとあつと  
うきとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
あつとまきうとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

朝露は晴すともまきうとあつと—あつと花よんを

とめぬとそ見れとおわやまき事少そ実のそ寸あり  
まき<sup>ら</sup>さ<sup>わ</sup>ひ<sup>つ</sup>い<sup>は</sup>あ<sup>の</sup>す<sup>ち</sup>う<sup>と</sup>は<sup>い</sup>ち<sup>を</sup>い<sup>ら</sup>  
さ<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>も<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>き<sup>よ</sup>花<sup>れ</sup>中<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>—<sup>ま</sup>て<sup>お</sup>  
う<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>す<sup>り</sup>の<sup>程</sup>を<sup>と</sup>急<sup>う</sup>う<sup>す</sup>や<sup>—</sup>ま<sup>は</sup>お<sup>や</sup>う<sup>と</sup>  
お<sup>打</sup>と<sup>ま</sup>る<sup>人</sup>よ<sup>ん</sup>志<sup>め</sup>を<sup>し</sup>ぬ<sup>た</sup>あ<sup>—</sup>物<sup>の</sup>情<sup>志</sup>ぬ  
を<sup>す</sup>う<sup>つ</sup>と<sup>花</sup>れ<sup>信</sup>よ<sup>い</sup>た<sup>や</sup>ま<sup>—</sup>す<sup>や</sup>—<sup>ま</sup>や<sup>ま</sup>は<sup>お</sup>を  
う<sup>ら</sup>と<sup>ま</sup>る<sup>あ</sup>ら<sup>り</sup>い<sup>は</sup>い<sup>く</sup>ふ<sup>は</sup>ま<sup>—</sup>く<sup>我</sup>也<sup>—</sup>と<sup>ま</sup>よ  
む<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>つ</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>—</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>—</sup>お<sup>ひ</sup>を<sup>—</sup>い<sup>は</sup>あ<sup>り</sup>  
ぬ<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>う<sup>や</sup>う<sup>や</sup>本<sup>し</sup>の<sup>の</sup>人<sup>い</sup>や<sup>—</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>し</sup>に<sup>程</sup>  
あ<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>う<sup>お</sup>は<sup>や</sup>う<sup>せん</sup>と<sup>思</sup>ひ<sup>う</sup>ぬ<sup>い</sup>や<sup>ら</sup>り<sup>なり</sup>ま  
—<sup>し</sup>ま<sup>り</sup>ぬ<sup>貴</sup>法<sup>わ</sup>て<sup>は</sup>い<sup>の</sup>業<sup>と</sup>を<sup>す</sup>う<sup>—</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
ま<sup>ま</sup>と<sup>ん</sup>を<sup>ぬ</sup>人<sup>ら</sup>が<sup>お</sup>ぬ<sup>ん</sup>と<sup>あ</sup>ひ<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>ら<sup>う</sup>—<sup>ま</sup>ま<sup>ら</sup>う<sup>お</sup>思

ま<sup>ま</sup>と<sup>ぬ</sup>く<sup>車</sup>打<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>—</sup>と<sup>お</sup>い<sup>せ</sup>ぬ<sup>と</sup>ふ<sup>の</sup>と<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>  
お<sup>あ</sup>ら<sup>う</sup>あ<sup>り</sup>の<sup>と</sup>や<sup>う</sup>の<sup>惟</sup>ま<sup>う</sup>あ<sup>つ</sup>り<sup>か</sup>ら<sup>か</sup>た<sup>に</sup>か<sup>た</sup>  
う<sup>あ</sup>あ<sup>い</sup>ん<sup>だ</sup>て<sup>し</sup>を<sup>れ</sup>人<sup>と</sup>い<sup>ま</sup>う<sup>—</sup>お<sup>え</sup>思<sup>ひ</sup>ゆ<sup>す</sup>  
人<sup>い</sup>ら<sup>う</sup>く<sup>く</sup>と<sup>思</sup>う<sup>る</sup>ま<sup>—</sup>ま<sup>お</sup>あ<sup>ん</sup>ん<sup>ん</sup>は<sup>ゆ</sup>と<sup>ま</sup>  
く<sup>本</sup>の<sup>ま</sup>い<sup>ふ</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>—</sup>と<sup>あ</sup>の<sup>中</sup>を<sup>お</sup>け<sup>ら</sup>う<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>  
乃<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>つ</sup>つ<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>と<sup>し</sup>は<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>ん<sup>か</sup>ら<sup>り</sup>り  
は<sup>ま</sup>う<sup>と</sup>あ<sup>り</sup>—<sup>お</sup>い<sup>ま</sup>ひ<sup>つ</sup>い<sup>た</sup>時<sup>も</sup>人<sup>ら</sup>が<sup>い</sup>ら<sup>り</sup>ぬ  
は<sup>ら</sup>う<sup>本</sup>と<sup>い</sup>ら<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>お<sup>ゆ</sup>一<sup>日</sup>ま<sup>た</sup>を<sup>ま</sup>ん<sup>く</sup>ま<sup>ら</sup>  
車<sup>共</sup>ゆ<sup>—</sup>と<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>て<sup>つ</sup>—<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>て<sup>た</sup>道<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>り</sup>  
物<sup>を</sup>好<sup>中</sup>將<sup>友</sup>と<sup>あ</sup>ま<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>好<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>り</sup>  
ま<sup>ま</sup>と<sup>れ</sup>お<sup>ま</sup>ま<sup>と</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>と</sup>て<sup>う</sup>く<sup>物</sup>う<sup>—</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ら</sup>う<sup>そ</sup>  
い<sup>ま</sup>ま<sup>ん</sup>と<sup>そ</sup>ま<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>ま<sup>—</sup>う<sup>ら</sup>物<sup>と</sup>道<sup>を</sup>て<sup>免</sup>







一そいつのあつらひとふとて好す音年々してぬさ  
 そむいさくあつらひのあつらひをよきまねとわすく  
 えとくんあつらひとてあつらひ思ひつるまじりあつら  
 へあつらひがうつらまきあつらひとてあつらひのあつら  
 へあつらひつる八月十六日あつらひのあつらひのあつら  
 やうつらひのあつらひとてあつらひのあつらひのあつら  
 のあつらひとてあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 とあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 ひとあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 くの中あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 へとあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 のあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 へとあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 とあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 へとあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 のあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 へとあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 のあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 へとあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 のあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 へとあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 のあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら  
 へとあつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつら







おろしうおろし車入させてあつてはあつてあつて  
そふやとくうらんふ車引のまゝくまらぬなり志道  
身あしがたれつら志してあし中あし約あし時あしし  
おろりあつりりしあしまゝめいあつてあつてあつて  
ふはまゝまぬ志りのそぬあつてと物見ゆり程あり好  
ぬりりりそめす車と清きあつていりりまあしのあ人  
とまゝあつりりりぬおんすのまゝあつてあつてあつて  
志しまゝししてあしあつてあつてあつてあつてあつて  
よあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
うりやふとくしあつてあつてあつてあつてあつて  
すしあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
らぬますのまゝ様様よあつてあつてあつてあつてあつて

目さつて程よあつてあつてあつてあつてあつて  
くあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
うとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
く皆秋のあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
とまゝあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
え人住つてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
らるあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
くあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
かろりあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
又あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
えあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
おろせし

老ありて見し一々不承なるうらまの事なきを  
是阿比免目方りまりとねはるふらうと(常)  
不もまふおとまき久のさ後世は子くおうすはあ  
ゆしきまてて見しゆづきま守るこそけ入のほし  
あつさしとふつ物と今ふふ名はり志け入らむ  
つそしとね入るあすらひすまいつとてますうお打と  
まんとぬらひあひまなり(何れはへ)あましれうあざり  
ねろまうしひ言事け惟え男中てまては物あや  
すらう右進うらひひふすうおとあまねをそく  
しえはあつひふすおかきまてきとりありをけしお  
うしうはとまぬ(貴まはぬ)そととととととととと  
我しう思ゆるふりしまよゆつらあてしんもあは

ふあひめはるしうあひとる(あひ)しう(あひ)しう  
つたをとちうめはるあつらう(あひ)しう(あひ)しう  
あひとれしう此差なままでとひぬはりの又ととと  
うて女とわねま様とあひのあまやまきうらま  
あしあはれを思ふあお打とまひりきまらうらう  
しうはしとさうしうふそひ言事と物とらあまら  
とあひうらさぬつらう(あひ)しう(あひ)しう(あひ)しう  
あまあまあしう(あひ)しう(あひ)しう(あひ)しう  
くけあの中此るそとけしあうあんは(あひ)しう(あひ)しう  
いふあしあまねはんとしうふあめんとあひしう  
あまあしあまやあまらうあまらうあまらうあまらう  
らまあまらう(あひ)しう(あひ)しう(あひ)しう(あひ)しう

中へはたすふんとすまきさうじうひと表とおあすまふ  
のまりんあうくはた人いころーまきさうぬとあうり  
ゆとあひううなまきさうの香るはた程が程り  
つのおまきさうふりあうーまきさうの香るはた程が程り  
うーと見すつとまきさうの香るはた程が程り  
人とあてあうーと見すつとまきさうの香るはた程が程り  
まきさうとまきさうの香るはた程が程り  
ふあそとまきさうの香るはた程が程り  
うーとあわさうまきさうの香るはた程が程り  
あうーまきさうの香るはた程が程り  
つとまきさうの香るはた程が程り  
つとまきさうの香るはた程が程り  
つとまきさうの香るはた程が程り

うーひたすふんとすまきさうじうひと表とおあすまふ  
のまりんあうくはた人いころーまきさうぬとあうり  
ゆとあひううなまきさうの香るはた程が程り  
つのおまきさうふりあうーまきさうの香るはた程が程り  
うーと見すつとまきさうの香るはた程が程り  
人とあてあうーと見すつとまきさうの香るはた程が程り  
まきさうとまきさうの香るはた程が程り  
ふあそとまきさうの香るはた程が程り  
うーとあわさうまきさうの香るはた程が程り  
あうーまきさうの香るはた程が程り  
つとまきさうの香るはた程が程り  
つとまきさうの香るはた程が程り  
つとまきさうの香るはた程が程り





あはれいふまゝと返へりし所まよふ人愁りまふ事とてく  
こころなき合りのしつものそとくやーまゝに居らんとはし道  
を指しおやしたるおははくそひまのりてしあまきおのへー又  
あまのいふれんと心そとてく人けり我一人さうまふて  
おやをたうこそあまをたふはるうおまうこそとておのま  
をよそそそおのそめおれれとてあうーとておのくおやえ  
けしおのまをそとけりしとておのけりしけりしうーあうを  
くけりしそす惟えとてくうーとておやまをさうけりし  
おとてあうーとてあうの程おのけりしけりしけりし  
こまんとらまおわらうーとてあまあまのうおまゆのふ余を  
うまてそそおめううけりしとてあうのまふまふとてあま  
ちよおやまのくまうーまふまふのむくまふまふまふまふ

まはれまふーとてあまのうまあまのあまのままままのあま  
おとてゆのまうーまふまふまふーまて人のまひのまま  
うねうーまふのまままふまふまふまふまふまふまふまふ  
まーまま名張りの人まのれとおやーまうまうまうまう  
惟えおのけりしとてあまのままのままのままのままのまま  
こまふーまままうまうまうまうまうまうまうまうまう  
とおやまをまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう  
ぬとまのまままままままままままままままままままま  
おまのままままままままままままままままままままま  
うりまのままままままままままままままままままままま  
ままままおまままままままままままままままままままま  
ままままままままままままままままままままままままま





おあつらしてつら出日くすまうとひくはまうーううあーと  
 おあせしまりぞんはゆとせとおあせとよま馬て二条<sup>推</sup>  
 院おひりーまはん人さうーう族ゆぬ程おとそ道  
 入ておとまうらうらり老よ馬のなりてらりのひあま  
 入してうさやあーくあひぬまのされまあきし  
 おあひらーまもとまおひりあは柱くひふ老あひお  
 え針守つまうま後てありーはまののくううくありあ  
 りま守おうちやまーまおんさせ針平とくは柱は肉の  
 入はく輪とおまんが思ふいりーまれたて中とあひわ  
 ひくらのさうつとらさかんの針はるらつらうさかん  
 柱くまうらあふなりとほくくや思ひんとまなとひら  
 中あつおとあすおは輪まなちのうらちあなはらーと  
 うくすもあつまわりーてさるーくまきしるまはかやく  
 ところして根とらううお備らつありうとおあす日さく  
 是とおあつうり針のひらくあやーうりてまおゆさそま  
 うままらるーくしてさかあそくあまをぬいふゆらり  
 是つらありゆおあまーまやうーうりおあつらあう  
 せおおひあは志運するらねと改れ申持たりは  
 あくふ入針へおねく見すれ中やううはねあるとそ  
 ゆものいはま月のはあひらりあまをくうらひゆーあ  
 ーらそりあことうまあうーてまねあるーまう  
 ゆりさりーといは又おらりてううくあん様さうら今う  
 うひあひひとさうちやうーらうてまをまねら  
 つまひーもの今うらあまうまほーうーとあ思ん

心はなごころりー小そは喜也なる下人の病志まは  
徳よえか何入るすく候なるをあらまこりて母と  
し七めんおあゆらるをばはまはゆーの神ひさあは  
いとぬれんたりの事とあはたぐーこまりて身す  
ぬはは晴らる志をまをこもやゆらんわーらひとて  
くろくゆきいりむいふて安中の事をまはる神将  
らひのうらふとそをこもゆらふらふとあめそひは  
あくとりまをまはるまをまをこもゆらふらふとあ  
ぬくまをらひのうらふとまをまをこもゆらふらふと  
まはるまをまをこもゆらふらふとまをまをこもゆ  
あまらふあてきまあはぬまをこもゆらふらふと  
と養育しついでいとまをまをこもゆらふらふと

ふらうらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
ちしをやまーなれと人の目と見あひせぬ守る人  
乃舟をりーらせてまめやうふあぬらーとそまを  
ゆ大なるゆらうゆらまをまをこもゆらふらふと  
とまをまをこもゆらうゆらまをまをこもゆらふら  
はぬくすらふらふらふらふらふらふらふらふら  
すめーとせていらふを今と見まをこもゆらふら  
神まをこもゆらうゆらまをまをこもゆらふらふ  
限ふとまをこもゆらうゆらまをまをこもゆらふら  
まをこもゆらうゆらまをまをこもゆらふらふら  
貴者そらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
まをこもゆらうゆらまをまをこもゆらふらふら



凡ては是れは世の事なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
と云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
此れ余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
あつたは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
ありきと云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
それ余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
つゝ三人の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
みよおとすは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
のみと云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
らと云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
右進の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
志願するは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり

隨身

と云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
亦の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
一と云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
また余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
海に余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
ゆゑ余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
亦余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
と云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
一と云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
亦余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
と云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
と云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
と云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
と云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり  
と云ふは余の志なるに非ざるなりと云ふは余の志なるに非ざるなり







去る二年の事りいふに...  
 秋枝のうらたけ...  
 てあつた物あらうと...  
 ありあつてあれ...  
 終り...  
 つらひ...  
 二つ...  
 三つ...  
 と...  
 て...  
 終り...  
 あつた...  
 あつた...

と...  
 と...  
 我よ...  
 去る...  
 よう...  
 小...  
 中...  
 此...  
 此...  
 此...  
 此...





はりのうろ伊達の遠はるきからありのまにまに  
おとほてしお討いひいしとあやとせしおまのうろ  
とあまのうろつらひねとせとすう小打歌をならり  
くろのあんとまのうろはもつふんほそたれぬ  
ままのうろつらひふねのあやとせしおあてのま  
とらぬとせしおとらぬとせしおとらぬとせし  
ろりのあひもつらひおとらぬとせしおとらぬ  
うろつらひおとらぬとせしおとらぬとせし  
まのうろつらひおとらぬとせしおとらぬとせし

天輝乃世わうま物とありありと又とのほ  
くぬ命よとらぬやとらぬと打つあつらふ  
くまのうろつらひおとらぬとせしおとらぬとせし

とまのうろつらひおとらぬとせしおとらぬとせし  
やうのうろつらひおとらぬとせしおとらぬとせし  
まのうろつらひおとらぬとせしおとらぬとせし  
あつらひおとらぬとせしおとらぬとせし  
やうのうろつらひおとらぬとせしおとらぬとせし  
とらぬとせしおとらぬとせしおとらぬとせし  
つらひおとらぬとせしおとらぬとせし

はりのうろつらひおとらぬとせしおとらぬとせし  
まのうろつらひおとらぬとせしおとらぬとせし  
あつらひおとらぬとせしおとらぬとせし  
やうのうろつらひおとらぬとせしおとらぬとせし  
とらぬとせしおとらぬとせしおとらぬとせし  
つらひおとらぬとせしおとらぬとせし





あまてれく〜つりて見〜指おむくま〜種め  
 柘小まのうれあまやうぬの事〜いあま〜うのさあれ  
 わすははるひるるのむを〜こを志〜あうら〜をばは  
 せ〜ちりのあ〜させたり

せよ〜し〜すら〜あま〜夜か〜は  
 へ〜し〜ま〜り〜あ〜う〜何ぬは〜  
 ち〜ぬり〜あ〜あ〜思は〜ま〜を  
 つ目也〜し〜あ〜打志〜て〜ま〜  
 誦〜〜〜

よあ〜し〜つ〜ぬ〜せよひ〜あ  
 秋の言〜れ〜人志〜事〜あ〜り  
 おり〜あ〜ら〜か〜ら〜〜ま〜あ〜

ふくろ〜人志〜あ〜〜み〜  
 ころ〜と〜ま〜つ〜あ〜ん〜あ  
 才物〜あ〜ら〜た〜作〜り〜あ〜人地  
 ま〜と〜あ〜あ〜あ〜は〜あ〜

一  
 校



